

れき ぶん

となん歴史民だより vol.46

Morioka tonan history and folklore museum

平成 28 年 3 月 25 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228

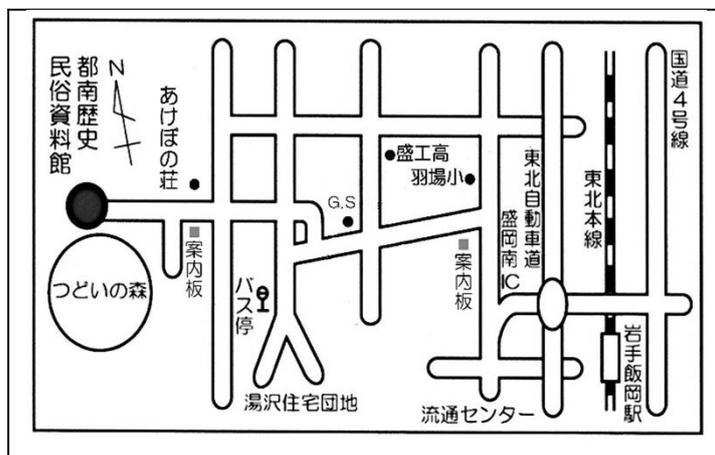


是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 身近に楽しめる先人・著名人ゆかりの場所
- 鎌田コレクション
- 第 6 回旧暦ひなまつり展
- 次回企画展のご案内
- 資料は語る④⑥
- 盛岡市所在
- 指定・登録文化財紹介④⑥
- となんの昔ばなし④⑥

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間
午前 9 時から
午後 4 時まで

入館料
無 料

休館日
月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始

身近に楽しめる先人・著名人ゆかりの場所

盛岡市都南歴史民俗資料館 館長 玉川 英喜

盛岡は多くの偉人・先人を輩出していますが、市民感覚として偉人の多い街という意識はあまりもってないように感じられます。また、盛岡の地を訪れた著名人や歴史上の人物も多く、そうしたゆかりの場所があちこちにあります。

日常そうしたことと無縁の生活を送っても何ら支障はありません。ただ、こんな所に歴史教科書に出てくる人物にかかわる足跡が残っているのかとか、あんな所にゆかりの地があるのかということが分かると街を見る目が変わるかもしれません。

昨年秋、当館の「となん・かけはしの会」では、文化地層研究会の真山重博氏に講師をお願いして市内散策を行いました。散策場所は、北山界限の聖寿寺、報恩寺、恩流寺のほか、中野界限の石造十六羅漢、永泉寺、大慈寺、などです。地域の歴史に詳しい方には当たり前のことかもしれませんが、真山氏の解説・案内でこれらの場所を巡ると「そうなんだ」ということが多々あり、私自身かなり興味をそそられました。今回はこの市内散策の体験などを踏まえ、先人・著名人ゆかりの場所をいくつか紹介したいと思います。

まず、市内散策で巡った聖寿寺ですが、ここは南部家の菩提寺で盛岡藩主南部家や南部英麿の墓所があります。英麿は利剛の次男で、東京専門学校(現早稲田大学)創立時の初代校長です。高校日本史の教科書には、はじめての政党内閣(隈板内閣)の成立や早稲田大学の創立者として大隈重信が登場しますが、英麿は大隈重信の娘熊子の婿養子で、草創期の早稲田を担った一人といえます。英麿の墓所へは140段の石段を登って行きますが、講師の真山氏によれば、この石段は市内各高校の運動部のトレーニングによく使われるそうです。生徒たちは使わせてもらったお礼に清掃活動を行うそうですが、早稲田大学進学希望の生徒たちは英麿の墓所も丁寧に掃除をするそうです。

聖寿寺散策後は報恩寺方面に向かいましたが、途中県立盛岡視覚支援学校の敷地にあるドイツトウヒについて案内してもらいました。そこはヘレン・ケラーが昭和12年(1937)来盛の際に記念植樹が行われた場所なそうです。しかし、当時のものは昭和62年(1987)に強風で倒れ、現在のものは2代目とのこと。ヘレン・ケラーの足跡が、盛岡にも残っているのです。その後、戊辰戦争における檜山佐渡最期の地となった報恩寺、大河ドラマにもなった黒田官兵衛拝領の兜を盛岡にもたらした栗山利安の墓所がある恩流寺等を散策しました。報恩寺の住持には下村泰中大和尚や尾崎文英大和尚といった名僧がいます。泰中大和尚のもとには富田小一郎、三田義正等、文英大和尚のもとには宮沢賢治等多くの人々が参禅修行に訪れています。ここでの修行、教えが近代日本の礎の一端を担ったかもしれません。午後は、世界文化遺産登録で話題の大島高任一族の墓所がある永泉寺や原敬の菩提寺大慈寺などを巡り、近代日本の発展に尽くした先人に想いを馳せました。

他には歴史散歩で巡った場所ではありませんが、例えば岩山には鹿島精一記念展望台があります。盛岡出身で(株)鹿島組社長・会長の鹿島精一は、日本の近代産業の発展に欠かせません。この展望台は、精一の娘婿鹿島守之介がふるさとへの想いを忘れることのなかった父を偲び昭和37年(1962)盛岡市に寄

贈したもので、嫡孫鹿島昭一設計、鹿島建設株式会社施工でつくられたものです。また、当資料館が建つ「つどいの森」には、宮沢賢治のフィールドワークの地だったことにちなみ賢治生誕百年を記念して平成8年(1996)に建てられた石碑があります。碑文の文字は賢治の妹トシの筆跡が使われています。当時石碑建立実行委員会事務局長だった藤澤栄耕氏によれば、トシの筆跡使用にあたっては賢治の弟宮沢清六氏のもとに足を運んで許可をもらったそうです。盛岡には先人・著名人ゆかりの場所がまだまだたくさんあります。ちょっと立ち止まって、盛岡の地で交錯した先人・著名人や歴史上の出来事に思いを馳せてみるのも一興かと思えます。

市民参加展

鎌田コレクション 第6回旧暦ひなまつり展

当館では、平成28年3月12日(土)から4月10日(日)まで市民参加展「鎌田コレクション 第6回旧暦ひなまつり展」を開催しております。市内在住の収集家鎌田隆氏所有の雛人形を中心に展示する「旧暦ひなまつり展」は、今年で6回目の開催となります。本年も、旧暦の時期に合わせて開催し、華やかな行事と春の訪れを同時に楽しむことができる内容となっております。鎌田氏所有の多様に表現された雛人形や、花巻市在住の西村氏制作の華やかさと細やかさで人気の貝雛、都南地域で雛まつりの時期に飾られていた花巻人形などを展示し、目で見て楽しんでいただければと思います。皆様のご来館をお待ちしております。

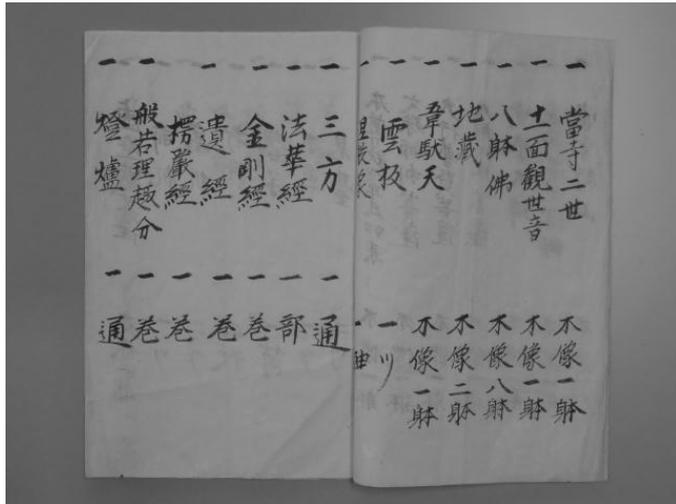


貝雛

平成28年度 次回企画展のご案内

企画展『岩手国体×都南』 平成28年5月21日(土)～6月26日(日)

昭和45年(1970)に岩手県で開催された第25回国民体育大会を中心に、当時の旧都南村内の様子について紹介します。



【什物書上帳 清水寺】

市内西見前に所在する清水寺の本尊をはじめとする仏像、経、仏具などの名称と数を、明治6年(1873)に記したものです。

このなかには、眼病を癒すと伝わる十一面観音立像(50年に1度のご開帳)や、宝永6年(1709)に鑄造され、昭和17年(1942)戦争により供出された梵鐘も記されています。現在、清水寺境内の鐘楼にある梵鐘は、昭和48年(1973)清水寺の本堂再建に合わせて新たに鑄造されたものです。

参考：曹洞宗清水寺「清水寺史」(1993)、都南村誌編集委員会「都南村誌」(1974)

盛岡市指定有形文化財



旧宇津野発電所 1棟
付 発電設備・送水管

盛岡電気株式会社(現東北電力(株))により、明治38年(1905)9月に営業が開始され、市内の民家に初めて電灯をともした県内に現存する最古の発電施設です。切妻造半地階の構造で、建物は洋小屋式のクインポストトラス型(対束小屋組)となっています。

機械設備は米国製で、築川から取水した水は送水管から取り入れ、噴射式で水車を回転させることにより電力を供給しました。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

『砂子姫の奮戦 一』となんの昔ばなし四十六

日本が戦国の世の中であつたころ、至る所で領地の奪い合いが激しくなりました。家臣が謀反を起こすなど、実力のある者が人の上に立つ時代となりました。

その頃、紫波郡の村々を治めていた斯波氏は、飯岡館の飯岡庄太郎を攻めるため、築田大学を大将に兵を率いて飯岡氏重臣杉山一学の大館に攻め寄せました。一学は驚き、さつそくこの事態を伝えました。飯岡氏の兵も、急いで館の要所の守りを固め、敵の攻撃を待ち構えていました。「城をあけて降参せよ、降参しなければ攻め入るぞ」と、攻め寄せた大学が館の表門の前にて大声で叫びました。飯岡館からは、飯岡氏家臣の太田勘蔵が櫓から飛び降り敵を二十人ほど切り倒していききました。この勢いに斯波氏の兵は逃げていききましたが、新たに斯波勢より攻撃の兵が出たため飯岡館の兵も応戦し戦況が激しくなりました。

この戦いの様子を城から見ていた飯岡庄太郎の娘、砂子姫は合戦に参加しようと小桜緘の鎧、白檀磨きの脛当、白鉢巻を身につけました。馬には金覆輪の鞍、虎の皮の泥障などを備え、大太刀と打刀を持つと敵陣めがけて駆け出しました。「ここに出でたるものを誰と思うか。われこそは飯岡城主庄太郎の娘、砂子という者である。われと思うものは出てきて勝負をしなされ。いざ勝負、勝負」と、太刀を振り回し敵陣へ突っ込み三十八騎を切り伏せました。斯波氏の兵は敵わないと思ひ、散り散りに逃げてしまいました。

出典『となんの民話』(都南歴史民俗資料館、一九八八)